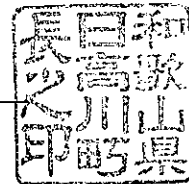




日川建 第 72 号  
平成19年5月7日

国土交通省道路局長 殿

和歌山県日高川町長  
笹 朝



### 今後の道路政策や道路の整備・管理についての意見書の提出について

日高川町は、和歌山県のほぼ中央部、日高川の中流部に位置し、平成17年5月1日に町村合併（旧川辺町、中津村、美山村）により誕生した町である。温暖で緑豊かな美しい自然環境に恵まれた町で、「安珍・清姫」で有名な道成寺を始めとする文化財、歴史遺産、地域における伝統的な祭礼が伝承され、また豊かな自然環境を活かした、活力ある地域づくりを展開している。こうした魅力あふれる地域であるが、道路網の整備が遅れているため、魅力を活かしきれず、少子高齢化の進展に伴う、生産年齢人口の減少による活力低下が懸念される上、人口の急速な減少が予想され、過疎化・高齢化が大きな課題となっている。特に、近畿自動車道紀勢線は、災害に強い幹線道路として整備されるだけでなく、国道42号の代替ルートとしての機能も担う、災害時においても、救援物資を運ぶ車両や救急車両が通行できる信頼性の高い、地域を支える「命の道」として期待されています。現在、海南～吉備間の4車線化と田辺市へと南伸している折であります。週末やゴールデンウィークの観光利用時には、激しい交通渋滞を惹き起こしているのが現状である。吉備～御坊間については、整備計画以前の基本計画区間であり、このまま放置されれば、ボトルネック区間となり、より一層、交通渋滞を惹き起こす要因となっている本区間を早期に整備計画決定をしていただき、1日も早い着工が望めるように、強く要望をする。また、川辺インターチェンジを計画したときに、将来的に高速道路が南伸した暁きには、フルインター化にするという計画の中で既に、必要な用地買収をしているところであり、高速道路の利便性を向上し、地域生活の充実、地域経済の活性化を図るため、4車線化と併せて川辺インターチェンジをフルインターとしての整備を強く要望する。重ねて、紀伊半島一周の高速道路網整備が一層推進されることを強く要望する。

併せて、地方の道路整備の重要性を十分認識していただき、道路特定財源は受益者負担

の基本理念に反することなく、遅れている地方の道路整備を促進するため、確保し充当すること。また、日高川町にも、近年、局所的な豪雨の発生があり、将来、土砂災害により孤立が予測される地域間道路の整備促進を図り、特に主要県道御坊中津線、御坊美山線、国道424号等々の早期改修と、避難道路を確保することにより、地域住民の生命、財産を守り、安全、安心のできる地域社会を構築することを強く要望する。

また、近い将来発生すると言われていた南海、南海地震に備え、緊急輸送道路における橋梁の耐震補強や防災対策が重要課題である。

さらに、町道を含み、現在、供用している道路について橋梁等の道路構造物の高齢化や劣化が進む中、維持修繕の財源については、非常に苦慮しているところであり、これらの維持修繕等の保全対策を講じ、計画的な道路管理を実施するためにも、特定財源として確保し充当することを強く要望する。

高速道路の料金水準は、諸外国に比べて高く、既存の高速ネットワークの効率的活用、機能強化のために、通行料金の他に特定財源措置を検討して、今より低い水準にすべきである。また、高速道路の機能を有効活用する上で高速道路の利便性を向上し、インターチェンジの地域生活の充実、地域経済の活性化を図るため、地域との調整を図りつつ、建設・管理コストの縮減を考慮して整備を促進すること。

道路事業の実施過程における透明性、信頼性を向上させるため、また地方の自主性・裁量性を高めるために、市町村職員が関わることにより、交渉が円滑化される。

また小規模事業について、地域一括で補助する制度の創設や、市町村による整備の代行をすることによって、道路事業の効果の早期発現が望まれる。

地方道路整備臨時交付金の手続きの簡素化を行なうことによって、地方の自主性や裁量性を高め、幅広い要望が可能となる。

目標宣言プロジェクト等による事業のスピードアップは必要と思うが、地方の道路整備については、事後評価を視野に入れて投資効果を評価すること。

事業について、規格の見直しなど徹底したコストの縮減を行なうのは良いと思うが、コストに拘りすぎて、将来に遺恨を、残すような暫定的な幅員構成ではなく、効率のよい道路計画とすること。

以上で、今後の道路政策や道路の整備・管理についての意見書とする。